

イングリッシュキャンプで伝えたかった事

コミュニケーションカフェみなみ舎 大武真子

今回イングリッシュキャンプを通して一番伝えたかった事があります。それは海外の方と触れ合う時に一番大事なのは伝えたいと言う気持ちが大事だと言う事です。英語はコミュニケーションをとるにあたってのツールであり、英語が出来ないから話さない、ではないと言う事を伝えたかったのです。

私が学生時代は海外の方と触れ合うきっかけがあまり無く、日本から出ていかなければ英語は必要ないと思い英語に興味がありませんでした。

社会人になって飲食店で働いていた私は海外のお客様と触れ合う事が多かったのですが、私は英語が話せないと言うことに捉われて伝えようともせずに英語が出来るスタッフに代わっていました。その度に英語の勉強をしてこなかった事を後悔しました。そんな私は接客英語だけでも話したいと思い短期留学をし、その後ワーキングホリデーでオーストラリアに行くことになりました。

その時に学んだ事、英語はもちろんですがまずは自分が作っている壁を無くす事でした。この壁を無くすにあたって壁がある理由を考えました。それは今まで海外の方達と触れ合う事が少なく、まずは伝えてみようとする事の圧倒的な経験値の無さからくる自信の無さと恥ずかしさでした。私は海外に行き、英語の勉強よりも壁を取り払う事に苦労しました。もし、壁が無い状態で海外に行けていたらもっと沢山の勉強やコミュニケーションが出来ていたと思います。

今回、イングリッシュキャンプのお話を頂いて子供のうちから壁を無くしていたらこの子供達が将来大人になった時にもっと活躍の幅を広げる事が出来るのではないかと思い参加を決めました。

イングリッシュキャンプを終えてみて、子供に向けて国際交流をする事はもちろん大事ですが一緒に来ている大人の方が既に壁を作ってしまった事が分かり、それが子供達に伝染して既に壁を作ってしまった子供が多い事に気付きました。ご両親を見ていると海外に行く前の私と重なりました。だけど、ご両親たちも私と同じでその壁を無くしたい気持ちは同じだと言う事は伝わってきました。ご両親達は壁を無くす事を次世代に託し、お子さんを連れて来ているのです。私は日本人スタッフとして大人の方達の壁を取る事も大事だったのかなと、その点が反省点です。でも、イングリッシュキャンプなど国際交流は定期的に続ける事が壁を無くす事に繋がり、それがまた未来の明るい日本に繋がると思える三日間でした。